

柳楽委員長新年の挨拶

新年明けましておめでとうございます

私は、関西新幹線サービックに出向して2年半が経過しました。出向して感じたのは、賃金をはじめとする労働条件は圧倒的に親会社であるJR東海が良いということです。そして、子会社である関西新幹線サービックの中においても、正規の社員と比較し、非正規の契約社員やパート社員の賃金は格段に劣るということです。同じ作業をして、なぜここまで格差が生まれるのか。社員は毎年昇給して行くのに対して、契約社員の基本給はある時点で頭打ちになるのです。私はこの様な現実を知り、契約社員やパート社員という弱い人の立場に立たなければならぬと強く感じました。弱い人たちの労働条件が少しでも改善されるのであれば、それは同時に社員の皆さんの改善にも繋がるわけです。そのためには、どうするかということが問われました。

その結論が、新しい労働組合の結成でした。しかし、新労組結成といっても、そのためには数多くの障壁がありました。それは、組織の形式、組合規約の作成、規約に基づく意思決定機関の組成、予算の編成などのプロセスを履践する必要のあること、あるいは組合規約の作成などです。そのため労組法の学習なども行ってきました。そして、JR東海労との二重加盟が可能なのかについても、大阪府労働者センターや労働委員会に何度も足を運び一つひとつ明確にしてきました。その結果、二重加盟は法的には何も問題がないということが分かりました。この様な経過を踏んで昨年8月18日に新労組の「JRサービック労働組合」を結成しました。

現在の闘いは、労働条件の改善と合わせて、サービック本社に対して労働協約の締結を求めています。Facebookを活用した新労組の宣伝をしていますが、それらは、見る側が意識しないとなかなか広まりません。やっぱり、職場で誰の目にも留まる掲示板が組織化の要をなすと思います。したがって、労働協約締結の闘いは、労働条件改善の闘いと並行して、当面の闘いの柱になります。今後、どういう闘いをする必要があるのか議論をしながら進めていきます。

更なる組織拡大を目指して奮闘する決意を述べて、新年のご挨拶とします。

